2023年4月1日
株式会社ＩＨＩ原動機
社長　村角　敬

２０２３年度 ＩＨＩ原動機グループ 安全衛生・健康管理重点方針

Ⅰ． **安全衛生スローガン**：「すべての災害は防ぐことができる」との信念のもと，全員参加で「災害ゼロ」の実現を目指す。

Ⅱ． 管理目標

１．健康管理

（１）健康度調査項目／モチベーション要因（期待役割理解・目的共有・成長実感）の項目全てにおいて，３カ年で3.8以上をめざす

（２）健康度調査項目／衛生要因（運動・睡眠・食事）のいずれかにおいて，３カ年で0.1ポイントアップ

２．**安全衛生管理**：災害ゼロ

Ⅲ． 重点方針

１．**健康管理：多様な人材の活躍のため，すべての基盤である「心身の健康」の観点から，「一人一人の活力向上」と「すべての人が対話を通じて働く喜びを感じられる職場づくり」に攻守両面で取り組む。**

エネ領域は既存事業からCS事業へのトランジション期間を迎え，組織・個人のレジリエンス向上が強く求められる。

（１）オフェンスの施策：

①個人の活力向上（一人ひとりの主体的な健康づくりの推進）

・生活習慣（運動・睡眠・食事など）に関する情報発信やイベント等の展開。　・セルフケア教育の実施。

②職場の活力向上（1 on 1 / 対話活動を通じた，いきいきと働く職場づくりを人事/職場/産業保健部門が連携し推進）

・1on 1の啓蒙。　・健康イベント等も活用した対話の場作り。　・職場の良好事例の横展開。　・高ストレス職場の解消。

（２）ディフェンスの施策：環境変化に伴う心身の不調に速やかに対応できる体制の整備

・各工場の健康管理体制の強化：勉強会や資格取得などを通じ各工場健康担当の知識と対応力の向上をはかる。

（３）喫煙対策の推進（独自）

・ブラッシュアップした全社禁煙デーの展開実施　・2027年全社終日禁煙に向け各事業所ごとに計画立案と実行

２．**安全衛生管理　事業領域スローガン：**健康経営，安全五原則およびグループ安全基本原則に基づき，「一人ひとりが心身ともに健康で，　安全で安心して働くことができる職場」を作りあげる。

（1）安全衛生管理に関するコミュニケーション（指示・伝達・確認等）の見直し　キーワード：「声の出る風通しのよい職場づくり」

① 経営層による全社パトロール，取締役会での月次安全報告，月次の全社安全担当者会議を継続して実施する。

② 工場や建設部門の幹部，部門長，ライン長，安全関係者は，個へのアプローチなど様々な手法による対話や各層ごとの対話の機会を設ける（縦，横の対話活動）。

③ ①②より　工事現場，工場で働く管理監督者，作業者，協力員などの安全に関する意識の向上，共通認識の浸透，醸成を図る。

④ 一作業一片付けを基本行動とし，整然とした職場をつくる。そのために，各職場で，「５Ｓの鉄則」を継続して実施する。

（2）「グループ安全基本原則」に該当する災害の撲滅　キーワード：「落ちるな，落とすな」「ノータッチに挑戦」

① グループ安全基本原則および過去の災害に基づき、特に「高所，中低所からの墜落・転落」「重量物取り扱い時のはさまれ」「激突され」災害防止に注力する。

② 3H（初めて，久しぶり，変更）作業を含む非定常作業の定義を理解し，まずは作業を止める。作業変更時のルールに則り，責任者と安全対策内容を確認・実施した上で作業を再開する。

（3）危険感受性を高める安全施策の充実　キーワード：ビジュアルな教材活用で危険感受性を高める

①「墜落・転落・転倒」「はさまれ・巻き込まれ」に加え，「高温，高圧，危険・有害物との接触」を重点対策項目として　過去に起きた自部門の災害や他部門の災害を様々な手法により点検・見直しを実施する。

② 上記　重点対策項目に対して，過去に起きた自部門の災害や他部門の災害の資料を利用して作業前の危険ポイントや対策が目に浮かぶなど作業者の主体的なKYMやリスクアセスメントを推進する。

③ ベテラン教育，腰痛教育など各種教育を継続的に行うとともに，危険体感教育など災害を自分ごととして捉える教育活動を行う。

（4）特に，建設部門における安全管理体制強化　キーワード：協力会社とともにレベルアップ

① 着工前会議等の事前検討の継続・充実

② 店社による現地指導・支援の強化

③ 協力会社との関係強化（工場部門も含む）

④ 未熟練労働者の把握・見える化・重点管理（危険感受性を高める教育など）

（5） 安全運転活動の継続

通勤や業務利用での法令違反や自動車事故防止のため，安全運転教育など安全運転に係る取り組みを継続する。

以上

ご安全に！　ご健康に！